

# 一般社団法人津島法人会 定款

## 第 1 章 総 則

(名 称)

第 1 条 この法人は、一般社団法人津島法人会（以下「本会」という。）と称する。

(事 務 所)

第 2 条 本会は、主たる事務所を愛知県津島市に置く。

## 第 2 章 目 的 及 び 事 業

(目 的)

第 3 条 本会は、税知識の普及、納税意識の高揚に努め、税制・税務に関する提言を行い、もって適正・公平な申告納税制度の維持・発展と税務行政の円滑な執行に寄与すると共に地域企業と地域社会の健全な発展に貢献することを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 税知識の普及を目的とする研修会等を開催する事業
- (2) 納税意識の高揚を目的とする租税教育等に関する事業
- (3) 税制及び税務に関する調査並びに提言に関する事業
- (4) 地域企業の健全な発展に資することを目的とする講演会等を開催する事業
- (5) 地域社会への貢献を目的とする健康、文化芸術等に関する講演会等の開催及び地域の歴史文化等の普及を行う事業
- (6) 会員の福利厚生等に資する事業
- (7) 会員の交流に資するための事業
- (8) その他本会の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業は、愛知県内において、津島税務署管内を中心として行うもの

とする。

### 第 3 章 会 員

(会 員)

第 5 条 本会に次の会員を置く。

(1) 正会員 本会の目的及び事業に賛同して入会したもので、総会において別に定める規定に適するもの

(2) 賛助会員 本会の事業を賛助するために入会したもので、総会において別に定める規定に適するもの

2 前項の正会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(以下「一般法」という。)上の社員とする。

(入 会)

第 6 条 本会に入会しようとする者は、理事会において別に定める入会手続により入会することができる。

(会 費)

第 7 条 会員は、総会において別に定めるところにより、会員になったとき及び毎年、会費を支払う義務を負う。

2 既納の会費は、原則として返還しない。

(退 会)

第 8 条 本会を退会しようとする者は、理事会において別に定める退会手続により退会することができる。

(除 名)

第 9 条 会員が次のいずれかに該当する場合には、総会の決議により当該会員を除名することができる。

(1) 会員としての義務の履行を怠ったとき。

(2) 本会の名誉を毀損し、又は本会の目的に反する行為があったとき。

(3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

- 2 前項の規定により会員を除名しようとする場合には、その会員に対して総会の1週間前までに理由を付して除名する旨通知し、総会で弁明の機会を与えなければならない。

(会員資格の喪失)

第10条 前2条のほか、会員は、次のいずれかに該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 第7条第1項の支払義務を2年以上履行しなかったとき。
- (2) 総正会員が同意したとき。
- (3) 当該会員が解散し、又は当該会員の津島税務署管内の事業所の全てを閉鎖したとき。
- (4) 当該会員が死亡したとき。

(会員名簿)

第11条 本会は、理事会において別に定める様式により会員名簿を作成し、主たる事務所に備え置くものとする。

- 2 前項の会員名簿は、会員に異動を生じた都度、これを訂正するものとする。

## 第 4 章 総 会

(種類及び構成)

第12条 総会は、通常総会及び臨時総会とし、いずれもすべての正会員をもって構成する。

- 2 前項の総会をもって一般法上の社員総会とし、同項の通常総会をもって一般法上の定時社員総会とする。

(権 限)

第13条 総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額

- (4) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) その他法令又はこの定款で定められた事項

(開催及び招集)

第14条 通常総会は毎事業年度終了後3ヵ月以内に、臨時総会は必要に応じて随時開催する。

2 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

3 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員から、会議の目的である事項及び招集の理由を示して会長に招集の請求があったときは、会長はその日から6週間以内の日を総会の日とする臨時総会を招集しなければならない。

4 総会を招集するときは、会議の日時、場所及び目的である事項を記載した書面をもって、開催日の2週間前までに通知しなければならない。

(議長)

第15条 総会の議長は、会長がこれに当たる。

(議決権)

第16条 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決議)

第17条 総会の決議は、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した当該正会員の議決権の過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

- (1) 会員の除名
- (2) 監事の解任

- (3) 定款の変更
- (4) 解散
- (5) その他法令で定められた事項

(書面表決等)

第18条 総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

- 2 前項の場合における前条の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。

(議事録)

第19条 総会の議事については、法令に定めるところにより議事録を作成し、議長及び出席した理事のうちから選出した者2名が署名又は記名押印しなければならない。

- 2 前項の議事録は、総会の日から10年間、主たる事務所に備え置かなければならない。

## 第5章 役員等

(種類及び定数)

第20条 本会に次の役員を置く。

- (1) 理事 50名以上60名以内
- (2) 監事 2名又は3名

- 2 理事のうち1名を会長、1名以上6名以内を副会長とし、1名を専務理事、5名以上15名以内を常任理事とすることができる。

- 3 前項の会長をもって一般法上の代表理事とし、副会長及び専務理事をもって一般法第91条第1項第2号に規定する業務執行理事とする。

(選任等)

第21条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

- 2 会長、副会長、専務理事及び常任理事は、理事会の決議によって理事の中

から選定する。

- 3 監事は、本会の理事又は使用人を兼ねることができない。
- 4 理事のうち、理事のいずれか1名とその配偶者又は3親等内の親族その他特別の関係にある者の合計数は、理事総数の3分の1を超えてはならない。

(理事の職務及び権限)

第22条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 会長は、本会を代表し、その業務を統括執行する。
- 3 副会長は、本会の業務を分担執行する。また、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その業務執行に係る職務を代行する。
- 4 専務理事は、会長及び副会長を補佐し、本会の常務を執行する。また、会長及び副会長に事故あるとき、又は会長及び副会長が欠けたときは、その業務執行に係る職務を代行する。
- 5 会長、副会長及び専務理事は、毎事業年度、4ヵ月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。
- 6 常任理事は、会長及び副会長の業務執行を補佐する。

(監事の職務及び権限)

第23条 監事は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより監査報告を作成すること。
- (2) 本会の業務及び財産の状況を調査すること。
- (3) その他監事に認められた法令上の権限を行使すること。

(任 期)

第24条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する通常総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 補欠のため選任された理事及び監事の任期は、前項の規定にかかわらず、

前任者の残任期間とする。

- 3 理事及び監事は、第20条に定める定数に足りなくなるときは、辞任又は任期満了後においても、新たに選任された者が就任するまでは、その権利義務を有する。

(解任)

第25条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

(報酬等及び費用)

第26条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事に対しては、総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

- 2 理事及び監事には、その職務を行うために要する費用の支払をすることができる。

(責任の免除)

第27条 本会は、一般法第111条第1項の役員の損害賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議によって賠償責任額から法令に定める最低責任額を控除して得た額を限度として免除することができる。

(顧問及び相談役)

第28条 本会に、任意の機関として、顧問及び相談役若干名を置くことができる。

- 2 顧問及び相談役は、理事会において選任又は解任する。
- 3 顧問及び相談役は、本会の業務執行上の重要な事項について会長の諮問に応じ、会長に対して意見を述べることができる。
- 4 顧問及び相談役の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 5 顧問及び相談役は、無報酬とする。ただし、その職務を行うために要する費用の支払をすることができる。

## 第 6 章 理 事 会

(構成)

第29条 本会に理事会を置き、すべての理事をもって構成する。

- 2 監事は、理事会に出席し、必要があると認めるときは意見を述べなければならない。

(権 限)

第30条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) 総会の招集に関する事項の決定
- (2) 各種規則、規程及び基準の制定、変更並びに廃止
- (3) 前2号に定めるもののほか、本会の業務執行の決定
- (4) 理事の職務の執行の監督
- (5) 会長、副会長、専務理事及び常任理事の選定並びに解職
- (6) その他法令又はこの定款で定められた事項

(開催及び招集)

第31条 理事会は、会長が招集する。

- 2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(議 長)

第32条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

- 2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、あらかじめその指名する理事がその職務を代理する。

(決 議)

第33条 理事会の決議は、この定款に定めるものを除き、議決に加わることができる理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の決議についての特別の利害関係を有する理事は、議決に加わることができない。

(決議の省略)

第34条 理事が、理事会の目的である事項について提案した場合において、その提

案について議決に加わることができる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議を述べたときはこの限りでない。

(報告の省略)

第35条 理事又は監事が、理事及び監事の全員に対して理事会に報告すべき事項を通知したときは、その事項を理事会に報告することを要しない。

2 前項の規定は、第22条第5項の規定による報告については適用しない。

(議事録)

第36条 理事会の議事については、法令に定めるところにより議事録を作成し、出席した会長及び監事が署名又は記名押印しなければならない。

2 前項の議事録は、理事会の日(第34条の規定により理事会の決議があったものとみなされた日を含む。)から10年間、主たる事務所に備え置かなければならない。

## 第7章 正副会長会及び常任理事会

(正副会長会及び常任理事会)

第37条 本会の事業を推進するため、理事会の決議により任意の機関として、正副会長会及び常任理事会を設けることができる。

2 正副会長会は、会長、副会長及び専務理事をもって構成し、常任理事会は、会長、副会長、専務理事及び常任理事をもって構成する。

3 正副会長会及び常任理事会の運営等に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定めるところによる。

## 第8章 委員会、部会及び支部

(委員会、部会及び支部)

第38条 本会の事業を推進するため、理事会の決議により任意の機関として、委員会、部会及び支部を設けることができる。

2 委員会、部会及び支部の組織及び運営等に関し必要な事項は、理事会の決

議により別に定めるところによる。

## 第 9 章 資 産 及 び 会 計

(基本財産)

第 39 条 理事会において別に定める財産は、本会の基本財産とする。

- 2 前項の財産は、理事会において別に定めるところにより、本会の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならず、処分し、又は担保に供するときは、あらかじめ理事会の承認を要する。

(事業年度)

第 40 条 本会の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第 41 条 本会の事業計画及び収支予算書については、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

- 2 会長は、理事会において予算が成立するまでは、前年度の予算に準じて新年度の収入支出をすることができる。
- 3 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(事業報告及び決算)

第 42 条 本会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告書
- (2) 事業報告書の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

- 2 前項の承認を受けた書類は通常総会に提出し、同項第 1 号及び第 2 号の書類についてはその内容を報告し、同項第 3 号から第 5 号までの書類については承認を受けなければならない。

- 3 第1項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に5年間備え置くとともに定款を主たる事務所に備え置くものとする。

## 第10章 定款の変更、合併、解散等

(定款の変更)

第43条 この定款は、総会の決議により変更することができる。

(合併等)

第44条 本会は、総会の決議により、他の一般法上の法人との合併又は事業の全部若しくは一部の譲渡をすることができる。

(解散)

第45条 本会は、総会の決議その他法令で定められた事由により、解散する。

(剰余金の分配の禁止)

第46条 本会は、剰余金の分配を行うことができない。

(残余財産の帰属)

第47条 本会が清算する場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第11章 事務局等

(事務局)

第48条 本会の事務を処理するため、事務局を設置する。

2 事務局には、事務局長及び所要の職員を置くことができる。

3 重要な職員は、理事会の決議を経て会長がこれを任免する。

4 事務局の組織及び運営等に関し必要な事項は、理事会において別に定める。

(公告)

第49条 本会の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法による。

## 第12章 補 則

(細 則)

第50条 この定款に定めるもののほか、本会の運営等に関し必要な事項は、理事会において別に定める。

## 附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（以下「整備法」という。）第121条第1項において読み替えて準用する整備法第106条第1項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 本会の最初の代表理事である会長は、次のとおりとする。  
会長 鈴木尚英
- 3 本会の最初の業務執行理事である副会長及び専務理事は、次のとおりとする。  
副会長 横井勝己、寺田晏章、鈴木吉男、前田重廣、加藤博穂、村上安德  
専務理事 山本景一
- 4 整備法第121条第1項において読み替えて準用する整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記及び一般法人の設立の登記を行ったときは、第40条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始の日とする。
- 5 本会は、公益目的支出計画の実施が完了するまでの間は、法令に基づき、事業年度毎に公益目的支出計画実施報告書を作成し、監事の監査を受けた上で総会に報告し、毎事業年度の経過後3ヵ月以内に、愛知県知事に提出しなければならない。
- 6 前項の公益目的支出計画実施報告書は、通常総会の日から2週間前の日から5年間その主たる事務所に備え置かなければならない。